

大盛況の17年度総会

平成17年11月18日
会場：ゆうぽーと



和気あいあい、南高風土



みんなの総会、誇りを持って参加しよう！



空はコバルト・この学校を出て良かったス



同じ学舎にて強い絆を結び、
若き日の情熱と青春を共にし、
社会の荒波をくぐりて集う
我等シワの中に眼は鋭く光り、
寡黙の中で再会を欲ぶ。
おお、南高！その勇気と慈
愛こそ伝統の輪をつくり、
名門を育む。

17年11月 総会出席者一覧

Table listing attendees of the general meeting in November 2017, organized by graduation year (e.g., 二中1卒, 南高4卒) and name.

学年幹事のご紹介

Table introducing the student officers for each year, organized by graduation year (e.g., 二中1卒, 南高9卒) and name.

母校の校長先生のごあいさつ



山形県立山形南高等学校 校長 佐藤 利廣

南高東京同窓会の皆さま方には、母校の教育活動に温かい御支援、ご協力をいただいております。

ますことに感謝申し上げます。

南高生は、将来、国家、社会の指導者として貢献できる人材を目指して行かなければならないと考え、学校経営に当たっております。

生徒会スローガンは、「魁」となり、文字通り、先んじて行動を起こし、攻め入るといふことであります。

これからも「文武両道」、「自憤自励」の精神を貫き、継承してまいりたいと思います。(南15卒)

“至宝”あけび会

須藤 迪 (南9卒)

ふり向けば「イン東京」ならぬ「イン神奈川」に居座って41年余にもなる。この間、故郷山形に引き揚げての生活を一度も考えなかったと云ったら嘘になる。

そしてその一つが、南高の同期会「華九会」であり「あけび会」である。在学時に運動部で全国に名を轟かせた気の優しい(?) 猛者達がメンバーの中心で、応援させられる(?) だけで無所属だった自分などは、末席に名を連ねて(!!) 楽しく付き合い願っている。

これが何時まで続けられるかは定かでないが「仕事中毒(?) だった会社勤め」を完全卒業しつつある今日では、正に“至宝”であり、母校・同期・友人に感謝の念しきりである。

これからもこれを大切に『一生不悟』ながらも『一生感動』『一生燃焼』と生(住)きたいと思う。

※「」内は相田みつを ころの暦より

学校出てから60年

小原 久男 (二中2卒)

昭和20年8月15日。玉音放送を聞いたのは、滋賀海軍航空隊に所属、第43分隊で特訓を受けていた時で、茫然自失。「戦争は終わった。即本隊解散。全員自由行動」の命令1つで、若干の旅費を受けて帰省。特攻隊、人間魚雷の幕が閉じられた。休む間もなく、2中復学。

西山滝蔵校長先生から、ねぎらいを受く。剣道部の諸岡弘毅先生剣道7段に師事、日本刀の抜刀術、居合道、剣道の指導を戴く新しい日々が始まる。当時の千歳山の緑豊かな勇姿が懐かしい。

ところが突然、占領軍のマッカーサー司令官より、学校教育の剣道禁止令が発令。即日廃部、剣道具一切の焼却廃棄を校舎の前庭で実施。その惜しさ。敗けたんだから仕方ない。然し、新しい世界に挑戦、文武両道一筋と、かねがね構想の一つでもあった籠球競技を二中の柱にせん。大いなる希望をもって、その基礎石とならんと決意。早速、剣道部廃部でお力を下さった山口孝次郎先生にご相談、「良からう」との一言で戦時中勤労働員の奉仕をしていた東北造

機(株)に籠球リング作りをお願いし、体操場の使用許可を担任の山口喜市先生に。更に「籠球部発足」の声を、下校時の生徒に、あの体操場下足箱周辺で勧誘。「腹がへって、そんなもの出来ないヨ」の声を多くの生徒から云われながら、それでも部員13名でスタート、山形師範学校の名コーチ長谷川先生をお招きし、学校は松田善男先生が部長として専任され充実、残念ながら籠球靴など見た事もなく、地下足袋での練習。暫くは試合してくれる相手も無く練習三昧。

一方、野球部も藤井孝志君が細い体で活躍、対抗戦でも勝ち名乗りをあげ二中も結構やるぞと山形市内の噂を得、後輩達も優秀な連中が育ちチームの層の厚さも充実。全校あげて声援のうねりが巻きおこって居り、応援の要あってこそ二中健児の勢い也…と野球試合の時には必ず応援という形が出来て、試合終了後はそのまま山形新聞社に直行、スコアの報告という定番を作りあげた次第。後に小宅に吉村和夫君を呼び、応援エール、応援の舞、等を伝えた。

バスケット部並びに山南東京同窓会の発展を心より祈ります。

卒業して50余年

浅黄 優喜 (南4卒)

我々は南高に昭和26年に入学し昭和29年に学窓を巣立った世代です。今年終戦後60年。そして南高を卒業して50余年で人生の節目を迎えたように思う。高校時代は質実剛健で自由の校風でくたくのない生活を送った印象が深い。やはり時代的には少々終戦のなごりが感じられ、物資不足で衣食住もまだ充分とは云えず特にエンゲル係数が異常に高かった印象で、上京して一層その感じがしたように思われた。人生をふり返ると南高でてから50余年と思うと光陰矢の如しの心境でつくづく時の経過の速さを実感している昨今です。人生は出会いと申しますが山南29会ではお互いに同じように歳を重ね、昨年今年に古希を無事に迎えた仲間があります。逢えば、やーやーと肩をたたき、握手をすれば高校時代にプレーバック出来る。山南29会に乾杯!!

東高よりエール

吉村 麻奈美 様

(東京大学助手、臨床心理士、産業カウンセラー)

私の小中学校時代の通学路は南高の前を通るものだったため、南校の校舎には母校よりも懐かしさを覚えるほどで、とくに親近感を感じています。また、私は高校の時、軟式テニス部だったのですが、南校との合同練習をする機会が多く、南校の部員さん達の明るさや気さくさのお蔭でずいぶん部活動が楽しくなった記憶があります。あの立派な校舎、それから社会的で明るい風土を持つ南校が、これからも益々のご発展をされますよう、心から願っております。(山形東高46卒)

卒業後25年を経過して思うこと

松井 伸二 (南30卒)

南高を卒業して25年。高校卒業もさることながら、大学卒業まで山形で純粹培養された私が、東京に本社のある政府系金融機関に就職して早23年目を迎えている。ということは、人生の半分、そして仕事人生の3分の2は外から山形を見てきたことになる。その間、毎年最低1回は帰郷しているが、山形の変貌ぶりには失望させられることが多い。中心市街地からは「山形らしさ」が姿を消し、周辺の住宅地に入り込む拡幅道路が地域コミュニティの崩壊を助長している。考えてみれば、団塊の世代から我々の年

代にかけての日本人は利便性と経済合理性を追求するあまり、地域の伝統、文化、風土などを次々と壊してきた。

近年、我が国では異常気象の頻発や食の安全性の崩壊等過去に例のない事象が相次いで起きている。しかし、こうした問題が、結果的には様々な資源に恵まれた山形の存在感、役割を増すことにつながるように思える。

たまたま私のいる会社は地域ソリューション機能を求められていることもあり、仕事人生残り3分の1は、近い将来訪れるであろう山形の時代に備え、これまで壊してきた山形の再生に少しでも役に立ちたいと考えている。

空はコバルト 元気でやってまーす

壬辰の会について 廣瀬 貞夫 (南2卒)

私達は昭和27年に卒業、今年で54年目を迎えた。同窓会名は「壬辰の会」と称し、累年親睦の輪を重ねて来ている。会津会長(旧姓・千歳)を中心として、“継続こそ力なり”を目標にしたからこそ集い逢えたと思う。会の名称は、卒年が「壬と辰の干支」に当たったことに拠るが、後年、ますます蘊蓄の味わいを感じている。会の運営は山形本部を基幹として、毎月発刊の会報は、母校・恩師・会員等の消息を掲載し、全国の会員に配布され、期待と喜びを与えて来ている。また東京を主に関東地域全般の親睦を目的に「関東支部」を設け、毎年秋季に支部総会を開催、本部役員を加えた懇親会も楽しい行事の一つに成長している。宴席での「酒量」だけは、年齢の衰えを感じさせない。今年の山南東京同窓会にも数多い出席者を期待したい。

空はコバルト 後藤 宏美 (南3卒)

昭和32年3月、東京教育大学体育学部を卒業して、すぐ4月1日から跡見学園中学校高等学校保健体育科教員として43年間勤め、定年退職後卓球部のコーチを引き受け、現在に至っています。週2回放課後中高女子部員と共にボールを元気に打ち続けて居ります。

毎年冬になるとカービングスキーのキレとズレを駆使し、白銀の世界を思う存分滑りまくっています。今後も卓球とスキーに生きがいを持って元気に頑張っていく所存です。

互譲の心 佐藤 寛治 (南4卒)

山南伝統の“文武両道”を貫き頑張っている後輩達の姿、春高バレーそのたび逢える楽しみ、OB会・現役との交流会と若きエネルギーをいただき感謝しています。

学生の頃は思わなかった事でも、社会に出、団体生活上チームプレイや、合宿等で培われた互譲の精神が、これから益々進む少子高齢化に必要と思われる。学生諸君は大いに学んでほしいものです。私の住む町でも、約1/3が65才以上・親子別居生活、こんな時こそ、地域毎の互譲の心とアイデアが必需と考えるこの頃です。

「古希」の抵抗 高橋 亨 (南6卒)

退職して7年が経ち、古希を迎えることとなった。高齢者の層が厚くなった近年、70才は、まだまだ“若造”と呼ばれているものの、体力・機能は年毎に老化していることは免れない現実である。これから先々自力生活を続けていく為、老化の進行に抵抗すべく、それ迄のゴルフの取り組み方の方向転換を計った。

即ち、同伴者との交流を楽しみつつも、スポーツ意識を持ち、又時折競技会に参加し、スコアを競い実力を確認している。その為の補充運動、体の調整

として、近くのフィットネス公園で、ウォーキング・ストレッチ・筋トレ等、自分なりのメニューで、1時間余、汗を流している。これらは単調で面白味も少ないが、目的意識を持つ事により長年継続してきた。しいては老化の進行に僅かなりとも、ブレーキを掛けていると信じながら。

勝っても負けても囲碁を楽しむ

松田 千秋 (南8卒)

ボケ防止には囲碁が最適と言うので、入門コースから受講し、1年半程週1ペースで受講。さて、これまでの会社人間から地域人間となった事で、これまで地域社会との交流の無かった私には、この地域に自分の身の置き所の無い事が判明。早速市の生涯学習センターへコンタクトし、囲碁同好会を紹介してもらい、そのひとつに入会。しかし私程度の実力では、そうは勝てません。勝った日には、ボケ防止に効果ありと喜び、負けても地域社会との親交が深まったと納得しながら毎週囲碁クラブで楽しんでおります。

“熱球甲子園”思い出の夏

冨塚 辰雄 (南9卒)

今年も第88回目を迎えた「熱球甲子園」大会は、数々のドラマを生み、新たな歴史を刻んだ。

在校時、私も野球部に属し、40回記念大会を前後に2年連続出場。熱い甲子園の土を2度も踏んだ。あれから、早や48年。この間を顧みますと、25歳で代議士の国会秘書を16年余勤め、42歳で地方政治(東京都練馬区議会議員)に参画し、5期20年の長きにわたり区会議員を勤めさせていただいて引退。現在、ボランティア活動を中心に地域貢献を心情として主なものは、障害者就労支援・生涯スポーツを通し介護予防の一つ転倒防止教室の担当、ニュースポーツのティーボールの普及活動などを通して「健康な生涯」の人生をおくれるよう日々活動しております。

空はコバルト 有海 豊 (南11卒)

人生はこれから～60才すぎた頃より、私は、人生後半、これからが大切だと思っている。今は平凡なサラリーマン生活を送っている身ではありますが、第二の人生の送り方を意識するようになった。元気で楽しくやりたいことをやって…と常に考えている。先ず、健康な身体(自分の体は自分で守る)作りに心がけるよう努めている積りです。毎日、朝5時に起き、窓を開け、気の流れを良くしストレッチ体操、自分なりに約30分行う。これが体に大変良いと思っている。南校時代(文武両道)の精神が生かされているのではないかと思ったりもする。

何事も健康が一番大切ではないだろうか、これからのこと毎日頭に描いているのです。

イン東京

イン・ヨーロッパ

飯島 寛 (南4卒)

1996年息子のドイツ駐在が切っ掛けで、仕事の合い間を縫ってヨーロッパ旅行の味を覚えて早や10年。年1回のペースが退職後はいつの間にか2回になり今年も6月にイギリスへ。西欧にも色々な国があり、初めて訪れるヨーロッパの国々はまさに感動そのもの。明治時代の書生っぽよろしく、ヨーロッパ文明を満喫している。

これも『古希から青春時代への若返りの秘訣』だと勝手に決め付けて、9月にはチロルアルプスと北イタリア湖木地方の旅を計画中である。

佐竹 壽夫 (南3卒)

二八会(南高昭和28年卒)の年次例会への出席が大きな励みでしたが、ここ十年程、妻と父母の介護等もあり出席もままならず、会の運営が立派なだけに忸怩たる思いでしたが、昨年は出席できました。

妻(68歳)は先頃死去しました。

職業柄(書籍出版)45年間に収集した書籍の内、稀観本、史、資料は南高校図書館に寄贈納入しました。「佐竹文庫」として保存利用するとのことですが、中でも「武道関係資料」等は一般の全国大学、高校図書館の中で南高図書館が随一充実したものになったと思います。

南高校剣道部東京支部(OB会)「会長7回卒庄司幸市氏、幹事長10回卒平尾眞次氏」恒例の「稽古・講話」「新会員歓迎稽古会・芋煮会」の世話焼きは続けております。その運営は二八会同様立派な会です。

私の生涯学習「篆刻」について

阿部 敏 (南6卒)

古来中国においては書と画は同じ起源とされ、それに誌と篆刻を加え四絶といわれ、文人が持つ必須の教養とされたようです。

4年前サラリーマン生活からリタイアを考える時期、四絶のうち一つも経験なしに全くの素人がカルチャースクールの篆刻入門講座に入門しました。

方寸の世界が性分に合ったのか、良き先生にもめぐり合えて以来毎月の研究課題印提出と、毎年読売展と謙慎展の出印を目標に石を彫り続けてきましたが、ようやく奥の深い篆刻の世界に一步踏み込んだ感じで、またまた研鑽が続きそうです。

元気で暮らしております！ 田村 憲二 (南8卒)

思えば南高での3年間は友達も大勢でき、楽しかった！あれから、アツという間の49年が過ぎた。何もない時代、35年前にたった一人で故郷を離れ、リヤカーにこおり一つ乗せ、漆山駅まで母に送ってもらい、まったく知らない東京に出てきました。約1時間田んぼ道を歩き、母の不安げな顔が昨日のように思い出します。

いろんな会社をわたり歩き、会社の倒産にも合いました。徐々に東京の生活にも慣れ、色々な人と出会い、今では孫が男4人、高3、中3、中2、小6になりました。色気がありません。体は元気で、月3～4回ゴルフに行っ

て鍛え、毎日30分歩いています。

昨年、みみの会の会長(33年同級会)、東海林宏君が長

年の病に勝てず亡くなり、誠に残念です。これまで4名が欠けました。如何に体が大事か尽々感じるこの頃です。適当に運動をし、お酒を控え、早寝早起きで頑張りましょう。皆さんの御健康をお祈りいたします。

援農ボランティアで元気に 秋保 武 (南11卒)

ここ我孫子は志賀直哉ほか多くの文人が住んでいたことや手賀沼を擁した緑豊かな土地柄であることから「北の鎌倉」とも呼ばれ、また首都圏のベッドタウンとしての「街」と、消費者を身近に控えた「地産地消型農業」が共存する地域でもあります。

そのような地産地消型農業に以前から興味がありましたので、会社を卒業した現在は、近くの農家に師事し「援農ボランティア」として様々な作物の栽培に挑戦しております。

最近では農家やボランティア仲間との交流が増え日々充実しておりますが、今後とも農業を生涯学習の場として元気で頑張ってまいりたいと思っております。

たまには新宿で一杯やりたいものだ！

佐藤 和彦 (南16卒)

東京に出てきて36年になる。仙台での大学生生活4年、同級生が東京での大学生生活を終えて山形に戻ってきたのと入れ代わりに東京に出た。縁あって山形中央高校を出た人で同学年の横山リエ(本名はまり子)という女性が妹と二人でやっている新宿3丁目のバー「GOD」ゴットには、よく顔を出し、高校時代を思い出している。

山形で官庁勤務の同級生の鈴木君とその部下とで飲んだこともある。GODのママの横山リエさんは、1970年代アングラなどという言葉が流行った時代、大島渚監督の「新宿泥棒日記」という映画にアーティストの横尾忠則氏の相手役として出演した女優で、石田エリが出た「春雷」や高橋洋子の「旅の重さ」などにも助演で出演した人で、テレビドラマの脇役としてもよく出ていた。それ故、見たことのある舞台俳優や演出家らしい面々と顔を合わせる事もある。

GODは会社と自宅の中間点、ということもあって、懐かしさを感じながらつつい寄り道する。最近山形から出張で来たついでに寄る人も少ないようだ。3丁目GODで在京の南高同窓生同士顔を合わせる機会があれば一杯やりたいと思っている。GODは都営地下鉄新宿3丁目出口すぐの要通りにある。

武田 謙吾 (南27卒)

思い起こせば、進学のため特急「やまばと」に乗り、上京したのは丁度20年前の3月。以来幾星霜、就職、結婚と今では山形より東京暮らしの方が長くなってしまった。毎年2回ほど実家の河北町に帰るのだが、その度に大きく変わる町の姿に驚かされる。母校もまたしかり。しかし、片道2時間をかけ木造の古い学び舎に通った、あの3年間の青春の日々は忘れまい。あの時育んだ友情は今でも色あせることなく続いている。青春の門、時は移れど場所は変わらず、南高健児のますますの奮闘を祈る。

石ころ

大沼 浩 (二中5卒)

われわれ19年組 (19年入学の級友) は多士済々、個性豊かな経歴の持主が多い中、私はそこらの石ころのような平凡な存在だ。しかし石ころが踏まれても、転がっても無理に頑張らず、自然体のように私も素直に生きてきた。

今では酒酌み交わす友との饒舌、趣味を同じくする者との濃密なひと時、内外の旅の安らぎや感動などの楽しみを重ねながら元気にくらしている。そして70路央ばのいま、その石ころも転がらぬ程の大きさになり、根が張ってきたようだ。

様々な人とふるさとへの想い

市村 好廣 (南12卒)

36年間の公務員生活を経て今は世田谷区内に特別養護老人ホームを開設運営し、3年余になる。

ここは平均年齢86歳余の要介護のお年寄80人ほどを介護福祉士など様々な職種の50人近くの平均30歳代の職員が介護する施設です。様々な環境、経験そして性格を持った人々の共同生活は介護する人、される人に関わらず様々な人間模様を生み、今の世相を反映するようなドラマも繰り広げられています。その中での話題のひとつは、生まれ育てられた出身学校です。それぞれの自分のルーツとしてしっかり意識し、誇りを持つ人は世代を超えた品格のようなものが感じられ、その行動や言動はたとえ体が不自由でも輝いて見えます。

勤め先の施設内でも様々な学校の話が出ますが、世代を超え、新しい情報を得て最近言われる世代間紛争 (私の仕事の関係で少子高齢化の問題や年金・医療保険、そして介護保険制度はこの典型) を防ぐためにも同期だけでない「同窓」とのつながりの場がふるさとの意味なのでしょう。

身近なふるさととして同窓会の発展をお祈りします。

●横浜ベイスターズの加藤選手を応援！

プロ野球の現役投手として活躍中の加藤武治選手 (南46卒) を応援するため、山南東京同窓会の有志10名は、9月2日横浜スタジアムで観戦し、声援を送った。試合は3-5で敗れ、ローテーションの関係で、加藤選手の登板はなかった。

(山田 勲、小原征四朗)

◎各学年で色々と愛好会の活動をされていると思います。ぜひ、近況をお知らせ下さい。

担当・小原征四朗 045-337-3231

隣国中国はヒタヒタと日本人を追いかけてくる。満面の笑みをたたえているが、背にハトと爆弾を背負いながら。中国は文の国で柔らかく、日本は武の国で硬い。中華の麺で解るし、太極拳の円でも解る。大陸を12回、台湾を50回旅行して調べてみると、表現や行動様式は違っても友好や平和を望む声は同じだと気がつく。でも、どこかが違う。異民族侵入や外来文化への防御の姿勢だろうか。それを知りたくて異郷に立つ。異文化はわが人生を好奇へと休みなく誘う。

人との出会い

松田 公 (南4卒)

人との出会いを求めて、年を重ねていくとややもすると、その出会いを億劫に思ってくるものだ。もしそうなったら老化現象と思うべし。

自治会長になって3年、沢山の人間、若い方の会、高齢者の会、楽しい食事会や祭りへの協力、何と人との出会いの多いことか、素晴らしいものだと思う。

昨年NHKの「ご近所の底力」自治会の面々と5時間の収録は出会いの圧巻だったかも知れない。

人との出会いは私を老化から守ってくれる。

化学物質の影響！

石堂 正美 (南30卒)

環境ホルモンのような身の回りにある化学物質が、私たちの体にどのような影響を与えるかを研究しています。特に最近では「どこか変な」子供たちが増えてきているのはそのような環境化学物質が発達期の子供の脳・神経系に影響しているためであろうといわれてきており、これらの点を重点的に調べています。動物実験の段階ですが、環境化学物質が脳・神経系の発達を障害し、他動性障害をきたすことが明らかになりました。これらは注意欠陥他動性障害や自閉症に見られる障害で、大変注目されている結果です。

親睦と交流—愛好会の場

●ゴルフ同好会が発足！



初めての懇親会コンペが9月8日岡部チサンC.C.にて、絶好のゴルフ日和に恵まれ、16名の参加者にて開催され、和気あいあいにて終了。

今後、年2回のペースでコンペを行う予定。皆さんの参加をお待ちしています。

プレー後、パーティと表彰式を行い、会長に奥山正博氏が満場一致にて推挙されました。

優勝 奥山正博さん (二中4卒)

2位 山口健三さん (南9卒)

3位 高橋 亨さん (南6卒)

(発起人) 奥山正博 (二中4卒) 03-5430-2353

鏡 清蔵 (南4卒) 03-3439-1211

高橋 亨 (南6卒) 048-863-6486

高橋英也 (南9卒) 044-955-8418

(参加者) 奥山正博・山口健三・高橋 亨・鏡 清蔵

石垣丘志・小関憲一・益子 修・田苗真三

石沢英男・東海林恒之・渡辺 滋・松田 公

浅黄優喜・高橋英也・小原征四朗・佐藤寛治

順不同 (浅黄・小原)

同窓会の産みの親の一人に
語ってもらいます



半世紀前の
全国制覇の思い出

(財)山形県体育協会長

金森 義弘

南校時代の思い出を書く機会などもう無いものと思っていたが、同期で関東圏で不動産業は勿論文筆及び同窓会の会報発行の責任者として大活躍をしている鈴木君からの依頼でしたので筆を取りました。

昭和33年当時の山形県バドミントン界は、2年連続してインターハイ優勝するなど県内のレベルが相当高くなっており県内予選で勝ち残ることが最大の難関でしたが、何故に南校バド部が突然、全国完全制覇〔学校対抗団体戦優勝(板垣、故永井、船山、金森)、ダブルス優勝(板垣、金森)、準優勝(永井、舟山)、シングルス優勝(板垣)、5位(舟山)、秋の富山国体優勝(板垣、金森)]を果たすことが出来たかの理由は、2年生の夏休みの練習にあったと思う。連日、30度を越す猛暑の中約15Km郊外に走りに出かけ、効果的に暑さの中で戦う体力が付いた(インターハイは)8月1日から戦いが始まるが、バドミントンは締め切った体育館で戦うので館内の温度は40度を超えるという非常に劣悪な環境下で戦うスポーツですから、それらに耐え得る基礎体力は徹底して暑さの中で走りこむことそして練習に練習を重ねて行った結果が予想外の結果が出たものと思う。社会に出てからもあの時代の練習を思い出せばどのような厳しい仕事にも集中出来たかと思っております。

“健全な精神は、健全な身体に宿る”

今はいい思い出です。(金森会長は南9卒です)

平成17年度 収支決算書(案)

Table with financial data for the 17th year, including income and expenses. The table is split into two parts: '収入' (Income) and '支出' (Expenses). Each part has columns for '項目' (Item), '予算額' (Budget), '収入額' (Income), '増減' (Change), and '摘要' (Remarks).

収入総額-支出総額=差引
2,459,994円-1,635,836円=824,158円

編集後記

予算の関係で写真を除き、モノクロにしたのでどこか不満。応募が少なく長文が多いので少し苦戦。難事に挑戦するにやぶさかではないが、最後に届いた大先輩の見識には脱帽。気を取り直して再点検。概して大先輩達ほど思慮深く礼儀正しい。若輩者の素人作にご容赦を。たくさんの原稿ありがとう。支えてくださった先輩、同期、後輩の皆様へ感謝します。総会出席者記名は全員参加の意味です。 会報編集者 鈴木 隆(南9卒)

母校だより

教頭 吉田 敏明

24回卒の吉田敏明と申します。母校に教頭として赴任しました。バイオニアバレーボールチームの監督になられた吉田敏明さんと同姓同名で1年後輩です。南高に勤めて改めて歴史と伝統に培われた校風を感じています。文武両道を指して毎日一生懸命活動している生徒たち、高い指導力と熱い情熱を持って指導にあたる先生たち、南高の教育を支えてくれる同窓会やPTA、それらが一丸となったパワーを感じています。東京同窓会の皆様、まもなく「南高ギャラリー」が整備できます。どうぞ母校においで下さい。

生徒会長 黒沼 拓未(3年1組)

早いもので、私が個の伝統ある山形南高校の生徒会長という大役を務めさせていただくようになって、1年という月日が流れました。当初はただただ漠然と、この南高の伝統を崩さないようにとばかり、生活を送っていた私でしたが、任期も終わりに近づいた今となってようやく、この学校の真の姿を見る事ができる気がします。

往年の先輩方が築き上げて来られた「漢の城」。やはり偉大です。その「城」の住人の1人として、そして「魁」軍団の1員として、これまで以上の南高の躍進をお約束致します。

南高祭実行委員長 佐竹 玄

南校に入学して2年と半年が過ぎた今、南校にしかない素晴らしいものをたくさん見て、感じてきた。全校応援、クラスマッチ、そして最大のイベントである南高祭。これらのイベントは本当に南高というイメージを確立させているものだと思う。自分なりに考えると、このイメージは南高生の個々の個性によって創られている。そして、それを周囲にも伝達させる力を持っているのだと思う。残された半年間、精一杯、南高生を楽しみたいと思う。そして、南高生らしく卒業していきたい。

慶弔のお知らせ(山形のみまで記載)

物故者(敬称略) ご冥福をお祈り申し上げます。 同窓会員

Table listing obituaries and condolences for members. Columns include year/month/day, name, and graduation year. Entries range from 17/8/7 to 1/1/1.

第 6 回卒生の

「卒業50周年記念事業」を終えて

江口 光夫 (南 6 卒)

もはや戦後ではない、と言われた昭和31年(1956)。山形南高校を卒業した私達は、山形の「六日会」・東京の「六南会」を結成。節目となる卒業30周年に「体育祭用優勝旗」・還暦の祝には「大応援団旗」を寄贈しました。卒業50周年は古希の祝いも兼ねて、下記の3件を企画、実施いたしました。

(1) 「卒業50周年記念・文化祭」

6月7日(水)より11日(日)まで「文翔館」で開催され、出品者37名・作品数63点、絵画(油彩・水彩・俳画・木版・押し花・ステンシル)書・篆刻・写真・粘土工芸・皮革工芸・工芸・陶芸など多数。800名を超える参観者を数え、「芸術性の香り高い南高文化祭」との表現をも頂きました。

(2) 「卒業50周年記念祝賀会並びに古希祝」

6月11日、かみのやま温泉「ニュー村尾浪漫館」にて開催。千歳会長はじめ、恩師、赤間先生・武田先生・生亀先生、吉田教頭先生のご出席を賜り、全国各地から総勢97名が馳せ参じ盛大に催された。美声で校歌を会場に響かせた後、謡曲・日本舞踊・民謡・尺八・郷土芸能・合唱など遅くまで芸能文化交流が続いた。

(3) 「卒業50周年記念誌・あの日あの時」発行

文化祭や50年の写真と60名による寄稿文。120頁を超える思い出の一冊。

ここに卒業50周年記念事業を終え、各位の厚い絆と献身的な協力に深甚なる感謝を申し上げます。



代々木で歌った

「空はコバルト」の思い出

武田 幹雄 (南 8 卒)

昭和32年、夏の甲子園東北大会、山形、福島、宮城の3県代表の決勝戦が福島市信夫ヶ丘球場で戦われた。相手は宿敵山形商業。初回に外野のもたつきから2点を先制されたが、準決勝で、呼び声ナンバーワンの宮城東北高校を撃破した勢いが、止めを知らず、我が南高は逆転勝利、2度目の甲子園を手にした。紺碧の空で喉を潰して歌った「空はコバルト」、もうあれから50年、まだあの歓喜の炎が忘れられない。次の年も甲子園へ行く黄金期だった。

春分の日、代々木体育館の春高バレー、相手は富山第一高校、互いに1点を取り合う拮抗した戦い。最後は力の差が上回り、2:1で辛勝した。バス2台で来た応援団、リーダーの指揮のもと統制の取れた力強い応援。屋内競技場ではなかなか見られない活気溢れる南高健児、勝利を掴んだ選手の前で50年ぶりに歌った「空はコバルト」。

叶うなら、「甲子園」で、声高らかに歌ってみたい。



左が筆者

5 人の大楽隊

井沢 和男 (南 9 卒)

在校時の私は吹奏楽部に属し、毎日仲間とラッパを吹いた。圧巻だったのは、昭和33年(3年生)に甲子園で平安高と対戦、相手は地元ゆえ、千数百人の大応援団に50~60人の大楽隊。対するわが校はたった5人の楽隊。負けてはならぬと必死でラッパを鳴らし、顔も壊れんばかり。試合には負けたが、「楽団は負けてなかったよ」とお客さんに言われたのがなんとも印象的。あれから48年、定年で会社を辞めて近くの東京湾を見ながら、ららぽーとの海岸や親水公園でジョギングを楽しんでいる。今でも街を歩いていて、マーチが流れてくると昔を思いだして、自然と血が騒ぐ。あの時の仲間は皆んな元気だろうか……。

東京同窓会役員 (平成18年 9月現在)

会 長	齊藤 常男(南5卒)								
副会長	椿 尋昭(南1卒)	土屋 裕司(南2卒)	吉野 禮三(南3卒)	浅黄 優喜(南4卒)	江口 光夫(南6卒)				
常任幹事	山田 勲(南8卒)	武田 幹雄(南8卒)	小原征四朗(南9卒)	栗原 将(南12卒)					
	安孫子雅敏(南29卒)	高橋 健一(南33卒)	渡辺 弘樹(南35卒)	栗田 隆司(南42卒)					
会計幹事	加藤 忠利	監 事	加藤 芳男	高橋 亨					
顧問	会田 雄亮	丹野 益男	森谷 亨						
事務局	渡邊 修	吉田 正幸	加藤 康士	齊藤 健二	会報編集	鈴木 隆(南9卒)			

